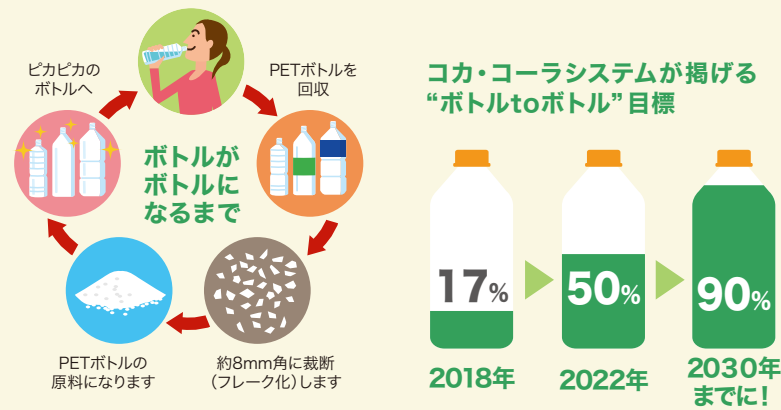


循環型リサイクル「ボトルtoボトル」

PETボトルは利便性・衛生面・環境負荷の全てで極めて優れた容器であり、回収した後、新しいPETボトルとしてリサイクルする「ボトルtoボトル」は環境負荷の少ないリサイクル方法です。リサイクルされたPETボトルを回収後に再生することで、循環型リサイクルが構築できます。

コカ・コーラシステムでは、「ボトルtoボトル」の割合を2030年までに90%まで高めることを目指しています。



100%リサイクルPETボトル

厳選された日本の天然水を使用したナチュラルミネラルウォーターブランド「いろ・は・す」より、100%リサイクルペット素材を用いた「いろ・は・す 天然水 100%リサイクルペットボトル」を発売し、国内最大規模^{※2}で展開しています。



- ### 1 ペットボトルを資源として循環利用する「ボトルtoボトル」

使用済みペットボトルをリサイクルし、新たなペットボトルへ生まれ変わらせることで資源を最大限活用
- ### 2 年間で自動車^{※3}およそ4,000台分の重さに相当する石油から新規に製造されるプラスチックの使用を削減^{※4}

石油から新規に製造されるプラスチックの使用を大規模に削減し、環境負荷を低減
- ### 3 ペットボトル1本あたりのCO₂排出量を49%削減

一般的なペットボトル ^{※5}	60.1
「いろ・は・す」天然水 100%リサイクルペットボトル	30.9

CO₂削減 49%

一般的なペットボトル^{※5}と比較して、ペットボトル1本あたりのCO₂排出量を49%削減し、環境負荷を低減

※1 100%リサイクルペット素材のボトル
 ※2 日本コカ・コーラ調べ
 ※3 一般的な小型自動車1台をおよそ1トンで換算した場合
 ※4 「いろ・は・す 天然水」の従来品555mlとの比較
 ※5 石油由来100%のペットボトル

「リサイクルしてね」ロゴの導入

全てのリサイクル可能な製品パッケージに共通の「リサイクルしてね」ロゴを導入し、消費者の皆様へのコミュニケーションを強化しています。特に、リサイクルPET樹脂を100%使用した容器のラベルには「100%リサイクルペット」の表示をあわせて記載することで、店頭などでより環境負荷の低い製品を選んでいただきやすくなりました。「リサイクルしてね」ロゴは、今後、広告物やPOP、リサイクルボックス等にも順次展開を予定しています。



ラベルレス製品の導入

「いろ・は・す 天然水」「綾鷹」「爽健美茶」などのラベルレス製品をオンライン販売で導入しています。ラベルレス製品は、製品容器からラベルをなくすことにより、プラスチックごみの削減につながるとともにラベルをはがす手間をなくし、リサイクルのための分別も容易にします。



北海道コカ・コーラグループの取り組み

公益財団法人アイヌ民族文化財団と「ペットボトル資源循環の協働事業」を開始



2020年9月、公益財団法人アイヌ民族文化財団と「ペットボトル資源循環の協働事業」を開始し、ウポポイ(民族共生象徴空間)にて協定を締結しました。



本協定の目的

- 「ウポポイ(民族共生象徴空間)」がアイヌ文化の復興・発展および国民理解促進の拠点であり、国内外から多くの方々が集まることが期待されていることから、来場する多様な世代に対してリサイクルに対する意識を高め、この活動を広げていくこと
- 使用済みのペットボトルを新しいペットボトルに生まれ変わらせる「ボトルtoボトル」を促進させること

また、同施設の管理事務所に、空容器回収ボックス「リバースベンディングマシン」を設置し、「ボトルtoボトル」のリサイクルを行うほか、回収した空容器1本につき1円がアイヌ民族文化財団へ寄付され、寄付金はアイヌ文化の振興に役立てられます。



海岸にて清掃活動を実施

社員の海岸漂着ごみに対する問題意識の醸成を図るとともに知見を広げるため、「NPO法人 北海道海浜美化をすすめる会」が主催する海辺の清掃活動に社員がボランティアで参加しています。

2020年は8月に「エコツーリズムin積丹」、10月に「浜益ビーチコーミング」へ参加し、国内外からの漂流物も含めさまざまなごみが拾われ、処理されました。



「容器の2030年ビジョン」体験コーナーを開設

プラスチック資源の循環利用をさらに加速することを掲げて日本のコカ・コーラシステムで策定した「容器の2030年ビジョン」を知っていただくために、体験コーナーを本社ビル1Fに開設しました。本社ビルに訪れるお客さまが、自動販売機型の空容器回収ボックス「リバースベンディングマシン」を体験したり、PETボトルのリサイクル工程を理解しながら素材にふれることができるなど、プラスチック資源の循環利用について身近に考える機会を提供しています。



空容器自主回収のテスト運用

自分たちが作ったものを自分たちで回収する。自動販売機設置先の協力を得ながら、空容器自主回収の専用ルートによるテスト運用を開始しました。

